

令和 6 年 11 月 22 日
10 時 41 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9 番

氏名 柳 楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 認知症支援について

(1) 行方不明対策について

認知症が原因で令和5年に全国の警察へ届け出のあった行方不明者は、前年より330人多い1万9,039人。その内、年内に所在を確認できなかった人は250人、遺体で発見された人は502人だったとのことである。

- ① 認知症が原因の浜田市での行方不明者の人数を伺う。
- ② 行方不明者対策として、現在の浜田市の取組を伺う。
- ③ GPS 端末を活用した認知症徘徊を見守るサービスもある。介護保険適用の自治体もあるようだが、浜田市での活用の可能性を伺う。

(2) ユマニチュードの普及について

認知症と軽度認知障害の方を合わせて1,000万人を超える状況である。記憶障害や認知障害が起こる中で、当事者や家族などの不安から、行動・心理症状(BPSD)の発生によって人間関係が損なわれることもあることから、この症状を抑制することが重要である。

- ① 「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱で、相手が理解できるように届けるケア技法「ユマニチュード」が注目されている。認知症の人、介護する人の双方にとってメリットが生まれるこの技法について知っていただくため、市民講座を開催することは考えられないか伺う。
- ② 介護現場での活用により、介護士の負担軽減につながったとのことである。介護人材が不足する中では有効な技法と考える。浜田地区広域行政組合と連携して、介護施設等にもこの技法を普及する考えはないか伺う。

(3) 軽度認知障害(MCI)支援について

認知症では早期発見が重要と考える。特に軽度認知障害(MCI)の段階で発見し、適切な治療や予防を行うことで回復したり、認知症への移行を遅らせることもある。

- ① このほど慶応大学や済生会横浜市東部病院のチームが、認知症のアルツハイマー病や軽度認知障害の疑いがある人に対して、「困っていることはあるか」「楽しみはあるか」「最近の気になるニュースは何か」の3つの質問による検出手法を開発したとのことである。介護施設等でも実施できることから早期発見につながると考える。今後この手法を活用する考えはないか伺う。
- ② 外出機会や人との関わりが減ることにより、徐々に認知症状の低下につながることを家族を通して実感した。人が集まる場所に出ることが難しい人への対策が必要と感じるが、浜田市ではどのような支援が行われているか伺う。
- ③ 厚生労働省がホームページに「あたまとからだを元気にする MCI ハンドブック」というのを掲載している。この活用も有効と考えるが浜田市での活用状況を伺う。

2. GIGA スクール端末の更新について

- ① 浜田市での今後の GIGA スクール端末更新の流れを伺う。
- ② 端末の処分については、文部科学省、経済産業省、環境省の3省合同通知で示された方法で端末が再使用・再資源化されなかった場合、第二期端末購入の補助要綱に非該当となることが懸念されている。浜田市の処分はどのようにされるのか伺う。

3. 防災・減災の取組について

6 月定例会議の一般質問で宣言した、三重県紀宝町のタイムライン防災を学ぶため、10 月 3 日に公明クラブの会派視察を行ったので、その内容を参考に質問を行う。

(1) タイムラインについて

- ① 現在、タイムラインを作成している地区はどれくらいあるか伺う。
- ② 紀宝町では地区タイムライン（コミュニティタイムライン）の作成を、自主防災組織を中心に行われており、作成された計画を地区ごとに全戸配布され、共有されている。マイタイムラインの作成の参考になると考えることから、浜田市でも地区タイムラインの作成に積極的に取組むことはできないか伺う。

(2) 次期ハザードマップについて

- ① 紀宝町では、住民によるワークショップを参考に、地震・津波ルールブックを作成し、全戸配布しており、この一冊で必要なことが分かるものにされている。市民にとって分かりやすいことが大事だと思うが、浜田市の次期ハザードマップには住民の意見等は反映されているか伺う。

(3) 新防災情報システムについて

- ① 紀宝町が導入されている新防災情報システムは、防災行政無線とタイムライン防災情報システムから構成されており、タイムラインの行動項目の進捗管理や避難などの意思決定に必要な情報を収集・共有することができ、自主防災組織にもタブレットを配備し、避難所でも活用されている。このようなシステム導入についてご所見を伺う。